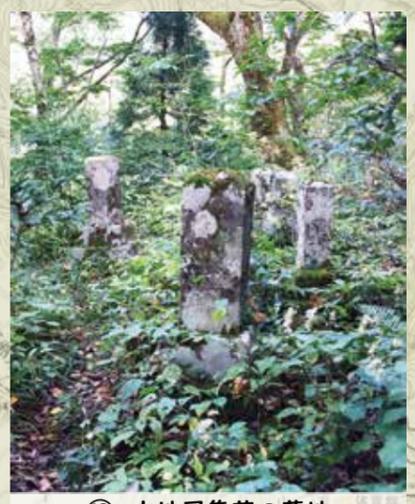


だいせんこどう かわどこみち
歩き・み・ふれる大山古道in川床道



⑬ 木地屋集落の墓地



⑫ 川床木地屋橋



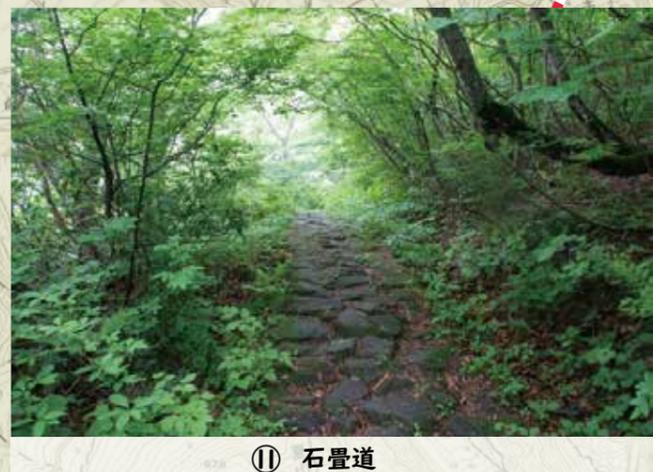
⑨ 石地蔵



⑧ 日下平六の碑



⑦ 大山滝



⑪ 石畳道

大山町

12

川床

13



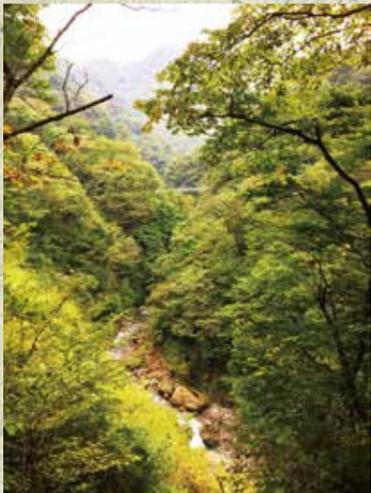
⑥ 石地蔵 (大山七十丁)



⑤ 木地屋敷跡



④ 旦那小屋跡



③ つり橋と加勢蛇川



⑩ 避難小屋 (大休峠)

大休峠

野田滝

池ノ平

矢筈ヶ山

飯盛山

不動滝

8

7

6

5

4

3

一向平

2

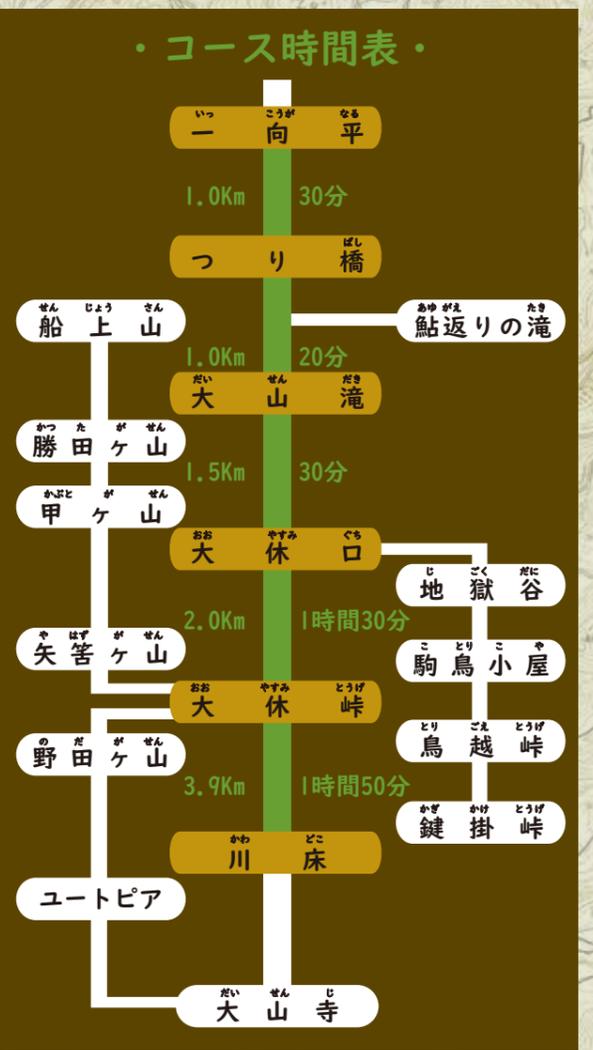
1



① 石地蔵



② 大山滝不動明王



【日本遺産の構成文化財】

大山道	川床道
	横手道
	坊領道
	尾高道 (丸山道含む)
	溝口道

0 S=1:25000 1Km

凡例
 旧状をとどめている
 推定

だいせんみち

大山道とは・・・

大山は、古よりいにしえ霊山として信仰され、その中腹には奈良時代に地蔵菩薩が祀られる大山寺が成立しました。大山道は、その大山寺へ参詣する道の総称です。この大山道は近世までに5つの主要な道（川床道・横手道・坊領道・尾高道・溝口道）が整備され、その道の1つ、大山の東側から参詣する道が川床道です。大山道のうち「川床道・横手道・坊領道」が『歴史の道100選』に選定されています。

かわどこみち

川床道とは・・・

川床道は、阿弥陀川の上流の「川床」を経て大山寺に向かう道の中で、2本の道が知られます。せきがねしゆく関金宿方面からおおやすみとうげ大休峠を越える道とあかさきしゆく赤崎宿からはたい羽田井村を通る道で、これらの道は、川床で合流しています。

① 石地蔵

現在、西向きに安置されているが元は北向きであったと言われます。一町地蔵は約109mごとに安置されており、当時は、旅人が目的地までの距離の目印として、重要な役割を担っていました。

② 大山滝不動明王

人々に対して災いや迷いから救って下さる仏様として信仰されています。

だんな

④ 旦那小屋跡

たたら師が住んでいた小屋が建っていた場所で、近くで「たたら製鉄」が行われていました。道に鉄滓てっさい（鉄を製錬するとき出来る不純物）が散乱している場所もみられます。

きじやしき

⑤ 木地屋敷跡

木地師は、「ろくろ」を用いて、わん椀やぼん盆等の木工品を製造した職人で、大山の材木を利用して生計を立てていました。その屋敷跡が残されています。

⑥ 石地蔵（大山七十丁）

大山寺から7.6kmの地点に建てられており「大山七十丁 笠杖 木地ヤ仁四良」と刻字されています。「笠杖」は、岡山県真庭郡新庄村にある笠杖山で、その付近に住む木地師がこの石地蔵を寄進したことがうかがえます。

⑦ 大山滝

平成2年に「日本の滝百選」に選ばれた大山滝は、落差43m（上段28m・下段15m）二段の段差がある「だんぱく段瀑」で滝壺があります。かつて昭和初期までは三段であったと伝わります。大山では規模の大きな滝であり、明治頃の地図によると、滝の奥の「いけ池のノなる平」と呼ばれるあたりに小さな湖があったようです。

くさかへいろく

⑧ 日下平六の碑

大きな平石が谷側に傾いて立っている石碑には、日下平六が願主となり寛延3年（1750）に大山道の難所に12体の地蔵を作って建てたことが記されています。日下平六は野井倉村の人です。

⑨ 石地蔵

日下平六の建てた12体の1つと思われる。風化が進んでいて目鼻立ちも判然としなくなっています。

⑪ 石畳道

のぞえ野添・のいくら野井倉方面から大山寺へ向かう参詣道は、峠付近で山からの湧水が発生するため、この石畳道は近隣の村人達によって慶長年間（1600年頃）に寄進造成されたものと言われており、大山寺に対する信仰があつかったことがうかがえます。